

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「続編 子どもから信頼・尊敬を得るためには」

参照：特別支援教育に学ぶ「発達が気になる子の教え方」BEST 著者：渡辺道治

○セロトニン5（元倉敷市立短期大学 平山 諭氏が提唱したもの）

キーワード：「ほほはさみ」

「ほ」：褒める

- ・セロトニンとは、褒められた瞬間に分泌される。褒めるポイントは目。目を見開いて大きく驚いて褒めたり、細めてにっこり喜んだりする。



「ほ」：微笑む

- ・発達の凸凹の大きい子どもは、相手が笑っていることを認識しにくい。でも歯が見えていると、はっきり認識できる。笑顔がはっきり伝わるポイント、歯である。

「は」：話しかける

- ・ポイントは、時間帯と時期。例えば、朝一番は不安を抱えていたり、モヤモヤした感じがあったりする。そんなときに話しかけてくれたら、子どもに安心感と癒やしを与えることができる。不安になりやすい時期やモヤモヤする時間帯を意識して話しかける。

「さ」：触る

- ・おすすめは、肩や背中をポンポンって優しく2回タッチすること。こうすることで、「あ、先生が見てくれている」、「応援してくれている」と安心感を覚える。

「み」：見つめる

- ・にっこり笑いながら視線を合わせる。先生と目が合うと、「ああ、見てくれているんだな」と安心できる。ポイントは、視線を1秒「止める」こと。

○ドーパミン5（元倉敷市立短期大学 平山 諭氏が提唱したもの）

キーワード：「うみもこへ」

「う」：運動を取り入れる（体を動かすこと）

- ・ドーパミンは体を動かすことで分泌される。2回読んだら座って読み続ける、3番までできたらノート先生に持って行く、ペア学習を取り入れるなどの活動を組み合わせる。

「み」：見通しをもたせる

- ・「ここまでできたら今日は合格だよ」などと伝え、「よし、じゃあそこまで頑張ろう」とやる気になれる。

「も」：目的を伝える

- ・「この勉強はこのためにしているんだよ」とか、「運動会はこのためにやるんだよ」と、活動する前に目的を明確に伝える。子どもは、目的やゴールが分ければ、やる気が湧いてくる。

「こ」：高得点で褒める

- ・「100点おめでとう」、「わー、AAA!」等、テンションを高め、言ってあげるとワクワクする。うまくいかなくても「ナイスチャレンジ」と声をかけて、成功体験で終える。

「へ」：変化をつける

- ・授業の構成・リズム・テンポ、話し方のテンポ・語調、教材の見せ方、指名の仕方等に変化をつけると、「お、そうきたか」というような予想から外れる意外性がワクワク感を増す。



とれたて直送便



「待っているからね」



給食の準備をする時間なのに、Kさんはまだ園庭にいました。担任は、「待っているからね」と伝えて部屋に戻りました。子どもを動かす方法は、自ら動きたくなる気持ちを起こさせる工夫が必要です。「次は給食だよ。待っているからね」は、子どもをその気にさせる言葉です。担任は少し遅れて部屋に入ってきたKさんを、優しい笑顔で見つめていました。